



関西いのちの電話



そっと寄り添って歩む

関西いのちの電話 評議員
社会福祉法人 博愛社 理事長 長野 泰信

1992年、初めて聖地エルサレムを訪問した。こもりとした糸杉に囲まれた高台にある「鶏鳴教会」を訪れ、薄暗い竪穴式の地下牢へ案内された。小さな穴から覗き込んだ地下牢。イエス様が鞭打たれ、暴行を受け、一晚吊り下げられて過ごされた地下牢。そして翌朝、谷を越え、向かい側のピラト総督の官邸まで兵士に引きずられ連れて行かれたと聞き、その状況に涙が止まらなかった。主イエスの大きな愛に触れた瞬間でした。今年2月、再び「鶏鳴教会」を訪れ、観光地に変わってしまった「鶏鳴教会」や聖地、ヨルダン川西岸地区の現状、その変化に驚き、人間の大きな罪に触れた。

パレスチナのこどもたち。…難民キャンプの薄暗い倉庫の中で、サッカーボールで遊ぶ子どもたち。エルサレム近郊の刑務所の壁の中で過ごす、見えない子どもたち。美しい花に囲まれて、ロバと共に丘陵で生活する遊牧民の屈託ない子どもたち（丘陵の先には入植地が）。誘惑の山でラクダと共にワンドラーと声をかける子どもたち。…この旅で出会った様々な子どもたち、何の罪もない大切な子どもたちです。しかし、イスラエル政府の政策が、この地で長らく

暮らしてきたパレスチナ人の安住を脅かすものとなっています。パレスチナ人の住む土地は奪い取られ、高さ8mもある分離壁や検問所で、村人の生活権は無視され、水源を奪われ高い水道料を払うベドウィンたち、パレスチナ人の大きな犠牲の上で、入植地の建設が進められています。抵抗運動に対しては、様々な弾圧が繰り返されています。子どもが遊び場を追い出され、反抗的に投石でもすれば、集団懲罰として一斉に逮捕され、尋問と称する暴力により、心が破壊され、解放された後も、子どもたちにはトラウマが残り、普通の生活に戻れない状況です。

子どもたちのケアにあたる「テント・オブ・ネーションズ」のリーダーは、自分の農場を開放し、「イスラエルの暴力に、暴力でもって対抗しても解決には結びつかない」と、“憎しみ”というエネルギーを前向きに変えるため、子どもたちの心のケアを地道に進めています。いのちの電話の相談員の皆さまが、日々電話を通して出会う相談者の心に寄り添い、聴くことにより心の痛みを分かち合っておられる事実と重なりました。パレスチナの子どもたちや、いのちの電話に関わる皆さまの心にも、ガリラヤ湖畔の丘に咲く美しい「からし菜」の花のようにそっと寄り添いともに歩んで参りたいと願います。真実を知り、祈り、そして伝えることの大切さを強く感じた旅でした。



「ガリラヤ湖畔の山上の説教教会とからし菜」 撮影：長野 泰信

関西いのちの電話 相談電話 (24時間365日) ☎06-6309-1121
自殺予防いのちの電話 毎月10日 午前8:00 ~ 翌日午前8:00 ☎0120-738-556

記録分析委員会からの報告

2014年の受信状況について

関西いのちの電話では、相談員が記録した受信記録カードをもとに、1年間の受信状況について分析を行っています。今号では、その分析に携わる記録分析委員会から、読み取れる傾向について報告します。

2014年全体を通して

2014年1年間の受信件数は24,147件で、昨年より500件以上増加しました。2010年以降、23,000件台を推移してきましたが、24,000件を超え、月2,000件の電話を受信していることとなります。性別では男性が全体の47%、女性が53%と女性が多いものの、昨年より男性のウエイトが高くなっています。

女性では40代、50代、30代、男性では40代、30代、50代という順番で多くの相談がありました。前年と比較してその傾向に変化はありませんが、女性では50代の増加に対し30代が減少しました。男性では50代の増加が目立ちました。

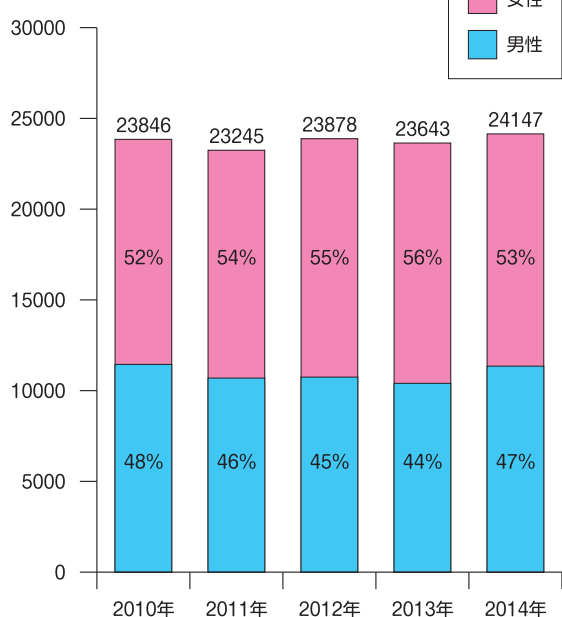
男女ともに最も件数が多い40代では、既婚者が減少し、未婚者が増加。精神疾患のため仕事につけず、一人暮らしで人生に不安を感じている姿が表れていました。特に男性では、就職できないことから女性との交際に積極的になれず、将来を悲観しているという様子も伺えました。

自殺傾向について

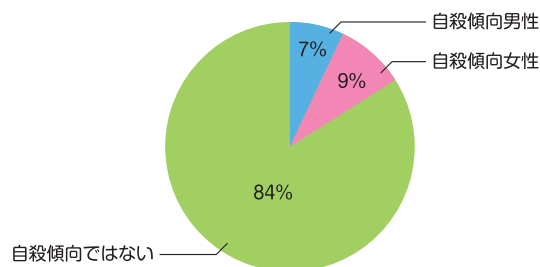
自殺傾向の電話の受信件数は3,810件で、全体の16%、ほぼ6人に1人が自殺を考えていることを示しますが、昨年より若干減少傾向となりました。その内、男性が1,589件で昨年より300件も増加し、女性は2,221件で400件も減少しました。警察庁発表の自殺者数で男性が女性の2倍以上という状況が続いていることから、誰にも相談できず苦しんでいる男性が依然として多いことが分かりますが、電話相談においては、若干でも良化傾向にあるといえます。

自殺傾向の電話3,810件のうち、年代別で一番多いのは40代の1,116件で29%、次いで30代が24%、50代が22%となっています。さらに性別で見ると、40代女性、30代女性、40代男性の順で多くなっています。また、年代別の受信件数のうち、どれだけの割合に自殺傾向の電話があるかを見ると、20代から40代が17%になり、特に20代は相対的に受信件数は少ないが、自殺傾向は高くなっています。

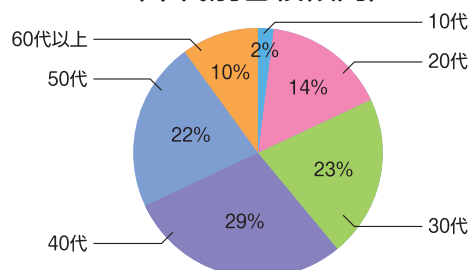
〈男女別受信件数〉



〈全体における自殺傾向〉



〈年代別自殺傾向〉

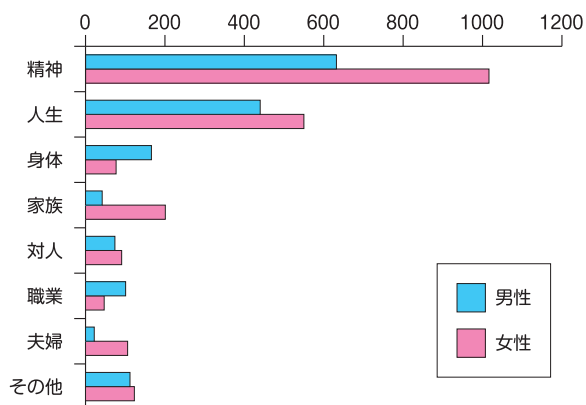


自殺傾向の電話の内、自殺をほのめかす「念慮」の状態が87%、自殺をしてしまいそうな「危険」な状態が9%、これから自殺をすると「予告や通告」をする状態が3%、「実行中」が1%です。ほとんどの人が念慮で留まっていますが、今まさに自殺をしようとしている人も少なからずいるということです。

精神疾患と自殺傾向

自殺傾向の相談内容では、「うつ病」や「統合失調症」などの精神疾患、「生き方」や「孤独」など人生に関するものが多く、その4項目で70%を占めています。その他、女性は「家族」、「夫婦」、「対人」など他者との関係における悩み、男性は「身体」や「職業」という自分自身の問題や社会との繋がりにおける悩みが多い傾向にあります。

〈自殺傾向の電話における主な相談内容〉



特に精神疾患についての相談は6,199件、総受信件数の26%ですが、自殺傾向の電話では1,658件、70%と、大変高い割合を示しています。

夏期募金
の
お
願
い



24時間・365日「眠らぬダイヤル」

皆さまのご支援が、電話をつなぎ「いのち」をつなげます。いのちの電話の活動を支援ください。

お振込先 ※社会福祉法人へのご寄付は税制上優遇されます。
口座名義：社会福祉法人・関西いのちの電話
口座番号：ゆうちょ銀行・郵便局 00990-3-68480
：三井住友銀行 十三支店(普) 998829

精神的な病を持っている方が、いかに生きづらく、自殺を考える状況にあるかが伺われます。特に女性にその傾向が高く見られました。

男性の自殺傾向について

昨年より増加した男性からの自殺傾向の電話では、精神疾患があり仕事をしていない人が61%、精神疾患を抱えながら仕事をしている人が20%、疾患はなく仕事をしている人は11%、疾患はないが仕事をしていない人が7%でした。つまり5人に4人は精神疾患が長い間治らず、そのために仕事に就けず苦しんでいる人、疾患を抱えながら仕事をしていても、復職と休職をくり返している人が多くいました。特に40代50代では、社会においても家庭においても責任ある立場にいる人が多い中、精神疾患で仕事がしたくてもできない、仕事に就いても病気を悪化させる、結婚もできない、など孤独で生きづらい日々を過ごしている様子が多く見られました。

記録分析委員会では、受信記録カードを読み、受信傾向等の情報を共有し、相談員がよりよく聴くことができるよう学びの場を提供しています。

なお、関西いのちの電話はかけ手の思いに寄り添う基本的な活動だけでなく、各種委員会活動など相談員同士の支え合いで成り立っていることをご理解いただければ幸いです。

(記録分析委員会)

2014年度 財務報告 資金収支計算書

(単位：円)

勘定科目		決算
経常活動による収支	収入	
	事業収入	5,901,024
	経常経費補助金収入	1,844,000
	寄付金収入	7,348,228
	雑収入	1,073,270
	受取利息配当金収入	5,118
	経常収入計(1)	16,171,640
	支出	
	人件費支出	6,669,708
	事務費支出	6,150,066
事業費支出	5,588,992	
経常支出計(2)	18,408,766	
経常活動資金収支差額(3)	△2,237,126	
財務活動による収支	収入	
	積立預金取崩収入	1,366,037
	財務収入計(7)	1,366,037
	支出	
財務支出計(8)	0	
財務活動資金収支差額(9)	1,366,037	
予備費(10)		
当期資金収支差額合計(11)	△871,089	
前期末支払資金残高(12)	871,089	
当期末支払資金残高(11)+(12)	0	



傾聴と共感 19

「共揺れ(その4)」

「響存」という人間観に立って、傾聴と共感を紐解いてみると、自分の内面に湧き起こってくる感覚や感情と、他者の内面に湧き起こってくるそれらとが、響き合うところに人間の存在があり、電話相談で求められている「Be-Friending」という対等な関係性の基本であるといえます。

私たちの感覚や感情は、人間の心の中にある源泉から湧き起こってくるものです。それらが表現され、響き合うことをイメージすると、ピアノとバイオリンの二重奏の場面が思い浮かびます。

ピアニストはピアノを弾きながらバイオリンの音色や旋律を聴き、バイオリニストはピアノのリズムや旋律を聴き取って、互いに自分の楽器の音色を響き合わせようとして演奏をします。そこには、ピアノとバイオリンの音色が1+1の域を越えた合奏の世界が広がります。それは2つの音色や旋律は違っていても、演奏者と楽器が一体となって表現される演奏者の内面からの感情が、フッと一体感を伴って二人の間に広がり共有される空間なのです。

この演奏で、どちらかの演奏者が、正確さを優先

して音符どおりに演奏したり、独りよがり自分の感覚に任せて弾きまくったりすれば、響き合いは生まれず、二人の共有感覚も味わうことができないのです。そればかりか、そんな演奏では聴衆を響存(共感)に招くこともできないのです。

この合奏者がお互いに感じ合う一体感、情緒的な感情、それが響存=共感ではないでしょうか。

こんな感じが電話相談の「今、ここ」で起こればすばらしいのですが。ひょっとすれば、日常での親しい人との間でも起こっているかもしれません。

しかし、このような響存=共感の世界に入ったとき、自他が一体となっているので、自分が自分でないような感覚、一抹の不安を感じるのです。と同時にある種の心地よさも同居しているようです。それは、自分が自由で自在であるところからくる感覚ではないかと思えます。そして目には見えないこの感覚が、確かな新しい世界に他者と共に漂っている共感の体験であることを知るのです。

もちろん、この共感が起きるためには、自分の中から湧き起こってくる感覚を堅持していること、自ら揺れ動き、相手と共揺れすることのできる柔軟な心を育てなければならぬのです。

(長尾文雄)

[参考：吉田脩二著「心の病は人間関係の病」より]

こんなこともやりました！ありました！

2015年4月～6月の活動の一部をご紹介します。

講演依頼 他

- ・6月12日 大阪YMCA学院高等学校 講座「共生社会」講義
- ・6月18日 應典院 講演
- ・6月19日 大阪YMCA学院高等学校 講座「共生社会」講義
- ・6月30日 大阪府自殺対策審議会

バザーのお知らせ

日時：11月7日(土) 10時から
場所：聖贖主教会及び中庭

関西いのちの電話創立42周年記念バザーを開催します。
バザー委員会ではたくさんの方に来ていただき、楽しんでいただけるバザーにしたいと思っています。



編集後記

毎年7月号は相談電話の統計データに拠る記事を掲載。データを通して「かけ手」の置かれた状況が読み取れ、時系列的な変化で見れば40代～50代の男性の孤独と生き辛さが増している。

随想記事「風」の読後、疑心暗鬼と憎悪が渦巻き翻弄されている子どもたちが、何時になれば平穏な日常に満たされるのかと暗い気持ちになる。「風」の題目と「かけ手に寄り添って聴く」の電話の基本姿勢。共通する「寄り添う」ことが、「憎しみ」を前向きなエネルギーに変え、「怒り・辛さ」を少しでも和らげると確信。「思いやり」を大事に継続する活動を！

(H.S)

関西いのちの電話 第20回 チャリティーコンサート 天満敦子 ヴァイオリンコンサート

日時：2015年8月2日(日) 16:00開演(開場15:00)
会場：いずみホール/JR大阪城公園駅より徒歩3分
チケット：前売り3,000円(当日3,500円) *当日座席指定

あの音色をもう一度

チケット取扱い

関西いのちの電話事務局 Tel: 06-6308-6868
Fax: 06-6308-6180、E-mail: kairind@age.ac
いずみホールチケットセンター Tel: 06-6944-1188

2015年 電話相談受信状況

受信月	1月	2月	3月	4月	5月
受信件数	1,995件	1,788件	1,975件	2,034件	2,146件
相談員数(延)	480人	453人	494人	497人	514人

社会福祉法人 関西いのちの電話

事務局：〒532-0028 大阪市淀川区十三元今里3-1-72
TEL 06-6308-6868 FAX 06-6308-6180
発行人：李清一 編集：広報委員会
ホームページ <http://www.kairindnew.com>